

第68回日本臨床検査医学会学術集会 ランチセミナー7

第4回臨床検査支援協会セミナー

2021年11月13日(土) 12:30~13:20

第4会場 富山国際会議場2F 特別会議室

司会：高橋 伯夫 (ASCL担当役員) 12:30~12:40

「ASCL活動報告」石橋 みどり (ASCL副理事長)

司会：米田 孝司 (ASCL学術講演会開催委員会委員長)

講演 12:40~13:20

「新型コロナウイルス感染症における抗体検査」

講師：山岸 由佳

(高知大学医学部附属病院感染症科／感染管理部 教授)



本セミナーは整理券制
ではありません



共催 第68回日本臨床検査医学会学術集会

特定非営利活動法人 臨床検査支援協会(ASCL)

新型コロナウイルス感染症と抗体検査

山岸 由佳

高知大学医学部附属病院感染症科／感染管理部 教授

SARS-CoV-2ウイルスにはスパイク蛋白質（S）がエンベロープに突き刺さるように存在し、さらにマトリックス蛋白質（M）と、エンベロープ蛋白質（E）の3つの膜蛋白質によって構成される。S蛋白はS1とS2で構成され、ACE2（受容体）と結合するのはS1部分である。また、粒子内にはRNAとともにヌクレオカプシド（N）蛋白が存在する。抗体検査では、これらのうちSやNを抗原とした抗体を測定する。検体は、全血や血清、血漿が用いられ、検査法はイムノクロマト法、ELISA法、CLEIA法などがある。また測定される抗体のタイプは主にIgG、IgMである。血中の抗体価がウイルス感染をどの程度阻害するかを測定する方法として中和試験があるが、煩雑で一般的な検査室で実施されにくい。抗体検査を実施することで、一つは感染の既往が確認できることと、もう一つは免疫獲得の指標となり得ることであるが、測定のタイミングや各キット間差などの違いから、現時点では日常臨床において保険での検査は認められていない。

本セミナーでは、新型コロナウイルス感染症における抗体検査の位置づけを考える機会としたい。